１学年通信

第２号

令和元年５月３１日発行
福岡県立久留米高等学校
校　　長　木本　和宏
第１学年主任　野本　智

“Glorious Days 栄光の日々”

１年１組担任　小西　洋平（英語）

“The most glorious moments in your life are not the so-called days of success, but rather those days when out of dejection and despair you feel rise in you a challenge to life, and the promise of future accomplishments.”

French novelist, Gustave Flaubert

「人生でもっとも輝かしい時は、いわゆる栄光の時なのでなく、落胆や絶望の中で人生への挑戦と未来に成し遂げる展望がわき上がるのを感じたときなのだ。」

フランスの小説家 ギュスターヴ・フローベール

４月に入学して、新しい人々に多く出会い、部活動、授業、定期考査と怒濤の日々を送っていることと思います。そして皆さんの人生で多くのことが変化している時期だと思います。何か上手くいったと思ったら次の日には、打ちのめされるような経験をするといった連続の日々ではないでしょうか。そのようなときについつい「他の人は上手くいっているな」「あの子は勉強ができるな」など何かと自分を比較したり、「もうだめだ」「とてもついて行けない」と必要以上に問題を大きく捉えすぎたりすることも多いのではないでしょうか。私も過去に同じように感じたこともあるし、現在も新しい学校に赴任し、同じように感じている部分があります。大学進学のために一人で上京した時、アメリカに留学した時、大学院で悪戦苦闘した時も日々圧倒されるように感じたものです。上に引用した詞は大学受験の頃に出会った言葉です。あがいている自分を肯定してくれるようで好きになり、何度も背中を押してもらいました。何もかもが最初から順風満帆に上手くいき、自分の思い通りに物事が進むことが幸せだと限らないと思います。現在、皆が苦労をしているのは新しいことにチャレンジしているからです。皆が難しいなと感じているのは自分の限界に挑戦して、自分のできる枠を広げようとしているからです。自分のできる範囲でこなしていては成長がありません。新しく出会った人々との間でとまどいを覚えるのは、あなたが自分の殻を破り、新しい自分に出会おうとしているからです。様々なことがありつつも、前を向いて挑戦し続けて欲しいです。私たちは、そのような努力や挑戦を応援するためにここにいます。

「未開の森を抜けると」

１年１組副担任　秋吉　瑠津子（英語）

平成３１年４月７日。卒業生から手紙が届きました。入学式のために初スーツを買ったこと。３年前が今では懐かしく感じること。入学前オリエンテーションで友人が無事にできたこと。東京外国語大学国際日本学部の教授、学生たちの教養に圧倒されてばかりいること。授業での生徒の発言・質問が驚くほど素晴らしく、来週の授業が楽しみで待ちきれないこと。ボート部、ディベート部、弓道部のいずれかに入りたいこと。他にも、興奮している様子が生き生きと、色鮮やかに伝わってきました。最後に、入学式での新入生代表挨拶を引用しながら、久留米高校への感謝と大学生活での困難を乗り越える決意を書いていました。

～抜粋～

大変だった受験勉強を乗り越え、本日、東京外国語大学国際日本学部の一員として入学式を迎えられることを誇りに思います。先日読んだ本の中にはっとさせられるエピソードがありました。１歳７ヶ月の時に、病が原因で視力と聴力を失ったヘレン・ケラーは、とあるエッセイの中で、森の中を１時間散歩してきた友人との会話を回想しています。その時ヘレンは、友人に「森の中にどんなものがあったのか。」と尋ねました。すると友人は「別に何も。」と答えたのです。ヘレンは「森の中を歩いて『別に何もない。』なんていうことがどうして言えるのだろう。」と思いました。このエピソードは私達がどれほど恵まれているかを気づかせてくれます。私は今、国際日本学部という未開の森の中に一歩踏み込みました。私は大学が与えてくれる新しい環境や学びを、感覚を研ぎ澄まして味わいつくしたいと思っています。森を抜けたころ、別に何も無かったなどということが無いように、実りある大学生活を送っていきます。

平成３１年４月８日。桜が満開、これ以上の天気はないというくらいの日。まさにみなさんの前途を示すような日に、みなさんは久留米高校の入学式を迎えました。久留米高校という「未開の森」に一歩踏み込んで、２か月が過ぎました。阿蘇での「自立と協働を学ぶ体験活動」で、私が１人でご飯を食べようとしている時に「秋吉先生、一緒にご飯食べませんか。」と生徒たちが気遣って声をかけてくれました。生徒同志でも同様の光景を何度か見かけました。森をぬけたころに、森の中に「別に何もなかった」と思うのか、「森の中に何かがあった」と気づくのか。後者の感性を３年間でしっかりと身につけ、卒業し羽ばたくのが今から楽しみだなぁと、１年生の凛としたまなざしを見て、想像する今日このごろです。

偶然ですが、小西先生と同様に、私（秋吉）も高校時代に、左上のフローベールの同じ言葉を支えにして、勉強していました。（高校の問題集に載っていました。）

１学期中間考査　各教科講評

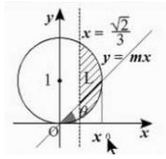
国語

【国語総合】現代文、古典ともに学習の差が結果に現れた考査でした。これまでは「国語は勉強しなくてもどうにかなる」と思っていたかも知れません。しかし、高校の「国語」では、理解するために覚えなくてはならないことが多くあります。時間をかけることを厭わず、丁寧な学習を習慣づけてください。

地歴・公民

【現代社会】よく勉強している結果が出ました。社会科は、地道な勉強によって、ある程度の点数がとれる教科です。次回からは、社会事象に対して、「なぜ、そうなっているのか」という疑問を先生方にぶつけてみてください。きっと、ますます良い成績が望めるでしょう。

数学



【数学Ⅰ】１００点を　取った生徒が　２５人　努力の成果が　現れている
短歌のようになりましたが、良くできていたと思います。平均点も９０点を超えていました。課題は「平方根」、「絶対値」などの正確な用語の定義を理解し、使いこなすことですね。

【数学A】ちょっとだけ　難しくなると　この状態　練習重ね　理解を深めよ
短歌のようになりましたが、良くありませんでした。課題は応用例題や発展、補充問題などのレベルが上がった問題です。何となく分かったつもりでテストに臨んでもダメです。何回も練習し、完璧を目指せ！

理科

【物理基礎】今回のテストは範囲が狭く、簡単な計算や中学校までの知識で解くことができる問題も多数あり、高得点がとれたと思います。次回以降だんだんと難しい内容になっていきますので、日頃の授業を集中して、分からないところをそのままにしない学習をしていきましょう。

【生物基礎】皆が点数を取ることができるテストでしたが、取り組みに差がありました。当たり前に答えることができる問題も、時間が経つと当たり前でなくなります。語句の定義をしっかりと押さえている、体系的に理解できている人でないと、３年生で苦労します。今後も力がつくテスト勉強を！

【地学基礎】今回は問題数が少なめで、内容も易しいものだったので高得点を取った人が多くいました。期末考査は問題数を増やし、難易度を高めていきたいと思っていますので、次回も頑張っていきましょう。

英語

【総合英語】英単語の問題に苦労をしているようです。学習ペースは１日 10 単語です。１年生で 2000 語、２年生で 4000 語、３年生の１学期で 4500 語終わらせる計画です。単語学習に必要なことは、①毎日勉強 ②1 日の学習回数を増やす ③自己チェック ④5 感のフル活用（音読、聞く、書く、見る）だと思います。寸暇を惜しんで取り組もう。最後には全員本気で取り組みます。しかし勝つのは早く本気になった人です。

【コミュニケーション英語Ⅰ】英単語に課題があります。英語検定では級が上がるにつれて、文法問題は長文問題に吸収されます。英検１級の問題では第１問(25 問）は全て、語彙問題になり、文法を単独で問う問題は消滅します。「英語学習は英単語に始まり、英単語に終わる」といっても過言ではありません。継続は力なり。

【英語表現Ⅰ】高校初の考査に向けて、授業以外で多くの生徒が意欲的に質問に来ました。この不断の努力を継続してほしい。「同時通訳の神様」と異名をとった故・國弘正雄先生の言葉を紹介します。「中学時代の先生の言葉を素直に実践し、教科書の１つのレッスンを平均 500 回、課によっては 1,000 回音読しました。」

短歌大賞　受賞作品

今回も応募いただき
ありがとうございました！

200 作品

久高１学年短歌協会

自立と協働を学ぶ体験活動 in 阿蘇
令和元年５月 10 日～12 日

大賞：

１組 今里　蓮華　「爪痕に　芽吹く新緑　風にゆれ　山の起伏の　美と強さなり」
２組 平塚颯志郎　「ハイキング 疲れたあとのバイキング よごれを落とし　風呂ダイビング」

最優秀特別賞：

３組 石橋　舞子 「ハイキング　水が飲みたい　止まりたい　長蛇の列に　背中押される」

優秀賞：

１組 原岡　桜　「汗流し　登った先に　待つ景色　友との間に　生まれる絆」
２組 森　虹花　「キャンドルの　集いでもらった 心の火 暗やみの中で　自分を見つめる」
３組 髙田　真衣　「朝起きて　周りを見れば　仲間たち　カーテン開ければ　阿蘇の牛たち」
４組 川上　詩織　「友達と　感じて学んだ　阿蘇の自然　みんなで深めた　絆の輪」
４組 椛島　咲花　「友共に　豊かな自然に　覆われて　山に響くは　笑みと歌声」
５組 徳重　雄也　「阿蘇の山　一夜の記憶　永遠に　キャンドルの火は　みんなを照らす」
５組 中垣　あいり「山登り　つかれてとまった　その時に　仲間からとぶ　励ましの声」

クラス賞：１年２組